

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>京都府立盲学校創立 150 周年に向けて、時代のニーズに応じた学校づくりを当面 5 年計画で目指す。（4 年目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心安全な教育環境を基盤とした視覚障害教育の充実 ・幼稚部から高等部専攻科までの専門的な教育環境の整備 ・インクルーシブ教育システムの構築に向けた教育改革 ・共生社会の実現を目指した地域・関係諸機関との連携再構築 ・重要文化財に指定された「京都盲啞院関係資料」の管理・保存と活用 ・京都府立聾学校と連携した 150 周年記念資料集の編纂 	<p>（成果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの活用により、本校の教育活動について適時かつ効果的に発信することができた。 ・自立活動をさらに充実させるための研究研修体制の基盤づくりを進めることができた。 ・卒業後の進路を見据え、体験活動や職場実習及び大学入試や国家試験に向けた個別補習を充実させた。理療科においては国家試験の全員合格を果たした。 ・文化庁・文化財保護課の指導の下、重文をはじめとする歴史資料の整備を計画的に進めるとともに、活用についての検討を行った。 ・保・幼・小・中学校や市町教育委員会との連携を強化し、視覚支援センターの活動を充実させることができた。 <p>（課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育領域の免許取得の取組を進め、視覚障害教育の専門性の向上を図る。 ・個別の教育支援計画の作成・活用方法を工夫することで、指導内容や方法の明確化を図り、学校と家庭が協力して教育を進める。 ・関係諸機関等との適切な連携の下で、本校教育活動及び視覚支援センターの機能の充実を図る。 ・新学習指導要領の本格実施に向けて、各学部が連携して「社会に開かれた教育課程」の編成に取り組む。 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）視覚障害教育の専門性と指導力の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育領域の免許取得の徹底 ・研究研修部と自立活動推進部の連携による視覚障害教育の指導力向上を目指した取組の推進 （2）職業自立を目指し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・職業教育に関する検討の継続 ・大学進学における進路指導及び学力向上の取組の充実（高等部普通科・専攻科普通科） ・施設入所・福祉的就労を目指した教育内容の充実 （3）児童生徒の教育的ニーズの把握とそれらに対応する教育内容の明確化と指導方法の工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の指導・支援に関する保護者との共通理解の下、個別の教育支援計画の作成と活用 ・学校教育と家庭教育における協力体制の構築 （4）ホームページを活用した積極的な情報発信（地域支援、教育活動、資料室等）と情報セキュリティの強化 <ul style="list-style-type: none"> ・アクセスしやすくなるホームページの工夫と適宜更新 （5）関係機関と連携した教育活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・職場実習、就労支援、実技研修等の強化 ・視覚支援センターの相談機能強化 （6）本校歴史資料の管理・保存と活用に向けた諸課題の検討 （7）ふるさと納税制度を活用した教育環境の充実 （8）全日本盲学校教育研究大会・京都大会の成功に向けた主管校としての計画的な取組

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
教育活動全般	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害教育の専門性と指導力の向上 ・児童生徒の教育的ニーズの把握とそれらに対応する教育内容の明確化と指導方法の工夫 	<p>【幼小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を充実させるとともに、児童の実態や課題を把握し、学習内容についての改善を図る。 ・安心安全な教育環境に向けて、指導内容や校内設備の見直しや点検を行う。 ・個別の教育支援計画により児童の教育的ニーズを把握し、指導内容について保護者への説明を丁寧に行っていく。 	B	<p>【幼小学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都府立特別支援学校研究会の授業改善部会への積極的な参加を通して、生活単元学習について研究を深めることができた。 ・安心安全について強く意識しながら、授業や行事を計画・実行した。その都度振り返りや反省を行い、次年度につなげていくことが重要である。 ・年度初めや必要に応じて学部懇談や個別懇談を設定し、保護者への丁寧な説明を行った。
	<ul style="list-style-type: none"> ・職業自立を目指し、キャリア教育の視点に立った進路指導の充実 	<p>【中学部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の教育的ニーズを把握し、視覚障害教育の専門性に基づくアセスメントを全教員で共有する。 ・指導内容を学部で検討し、指導方法について個別の実践事例をもとに交流を深めて研修を行う。 ・日々の連絡を丁寧に行い、指導内容及び指導方法について保護者と共有する。 		B
		<p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場見学や実習を効果的に実施し、キャリア発達を促すとともに、進路の実現を目指す。 ・基礎・基本を徹底し確かな学力の向上を図るとともに、引き続き進学や国家試験の全員合格を目指す。 	B	<p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年において、個々の進路を意識した施設見学や体験実習、職場実習等を実施し、卒業後の具体的な進路選択に繋がる取組を行った。 ・夏季・冬季の休業期間を中心に、補習授業や補充授業を行うと共に、模擬試験等を実施し、進学や国家試験全員合格を目指した取組を行った。 ・普通科・音楽科では、「生命のがん教育」や「性教育」において、外部機関と連携した取組を積極的に実施し、教育活動の充実を図った。

				<ul style="list-style-type: none"> ・理療科では、引き続き、京都ジョブパークと連携したビジネスマナー講座や、自己PR作成講座を開く等、就労に繋がる取組を行った。 ・今年度は、従来からの教育活動に加え、新たな取組を行った。これから、更に、時期、内容の検討を進め、より効果的な実施に繋げることが課題である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携強化 ・教科学習の充実につながる支援 	<p>【視覚支援センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早期支援を強化するために京都市以北の保幼連絡会議等で本センターの活動を紹介する等、関係諸機関との連携を深める。 ・弱視児童生徒が視覚補助具を工夫・活用し、教科学習を効率的に進めることができるよう取組を進める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼連絡会議等との連携はできなかったが、個別の対応で就学に向けた支援が繋がった。 ・弱視児童生徒にはタブレット端末やICT機器の有効活用がすすむように巡回相談員と共に支援を広げることができた。 	
組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的かつ計画的な組織運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外における業務内容を整理し、効率性や機能性を重視した業務の割り振りを検討する。 ・本校の教育活動における諸課題について、運営会議を効果的に活用しながら改善策を検討する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の偏りを防ぐために、校務分掌上の専門会議や専門担当の担当者及び業務内容の整理を行った。 ・児童生徒数の減少による短期的・長期的な学校運営上の諸課題に対応するため、2つの検討会議を立ち上げた。短期的課題については、集中的に検討を進め、次年度への見通しを付けることができた。
研究研修	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テーマ「社会生活を見据えた指導～主体性を引き出すきっかけづくり」に即した校内の研究・研修内容の充実 ・専門的かつ実践的な知識と技能の共有化 ・授業力・実践力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動推進部等、校内各組織との連携による基本研修や専門研修等の充実 ・全日盲研・京都大会に向けた主管校としての取組・参加を契機とした校内における研究活動の活性化 ・全校授業公開・研究授業の実施および今まで集約した実践事例の活用へ向けた整理 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・55年ぶりに主管校として取り組んだ全日盲研・京都大会に全国から470名の参加があり、大成功を収めた。 ・基本研修は、眼球の構造、弱視レンズとiPadの活用、重複児童生徒の指導、UDブラウザとPDF版拡大図書について行った。専門研修は点字を週1回、歩行を年20回、新たにICT講座(iPadの活用)を10月から月1～2回実施した。 ・12月に校内視覚障害教育研究会を实

				<p>施し、各学部、分掌からの実践報告や重複教育を考え合う機会とした。また、自立活動推進部との連携により4分野別研修（点字、歩行、日常生活、ICT）の研究討議を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校授業公開は学部毎の期間が重ならないよう設定し、各学部がそれぞれ1～2回の研究授業を実施した。 ・今まで集約した実践事例を活用しやすいように、サーバー上で整理した。
生徒指導・安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・学部間の連携強化 ・問題事象等に対して早期発見と組織的かつ計画的な対応 ・児童生徒の安全・防犯に関する意識の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ防止基本方針」に基づいた幼児児童生徒の発達段階を踏まえたきめ細やかな指導の展開 <ul style="list-style-type: none"> *家庭・地域社会・関係諸機関との連携 *未然防止を第一に、早期発見、早期解消へ至る一連の対応の徹底 ・安定した学校生活を送るために必要なルールやマナーの徹底と校内安全点検の実施 ・各校地の特性を踏まえた避難訓練等の実施 	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回のいじめ対策会議を開き、いじめの未然防止・小中高等部間の情報共有をはかった。 ・学校におけるルール・マナーの周知徹底を図るために、中学部では学期毎の集会を実施、高等部では毎週の集会で呼びかけ等を実施した。 ・学校安全点検を実施し、学校保健会議で情報を共有した。 ・起震車体験や消火器体験など、学部の特性に応じて避難訓練を実施した。
広報発信・情報管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを活用した積極的な情報発信（地域支援、教育活動、資料室等）と情報セキュリティの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセスしたくなるホームページの工夫と適宜更新 ・Wi-Fi環境の整備を行うとともに、情報機器等のセキュリティの強化 	B C	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を的確かつタイムリーに伝えることを留意し、ホームページ上の情報を更新することができた。 ・花ノ坊校地、大徳寺校地ともにWi-Fi環境の整備に着手することができた。

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 視覚に障害のある幼児児童生徒やその保護者に対して、盲学校の教育及び京都府視覚支援センターの取組に関する情報提供を継続して行い、地域支援の取組を充実させること ○ 盲学校卒業後の進学や就労を支援するために、社会のニーズをとらえた教育活動をいっそう推進すること
----------------------------------	---

<p>次年度に 向けた改善の 方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 盲学校、視覚障害教育、京都府視覚支援センターによる地域支援の取組に関する情報発信のさらなる充実 関係諸機関との連携強化 動画等を活用したホームページの工夫 土曜日を活用した地域支援の取組等 ○ 卒業後の希望進路（大学等への進学、就労等）実現に向けた指導・支援の充実 学習指導・進路指導の充実と点字受験に係る条件整備 社会のニーズを踏まえた指導内容の工夫と職場開拓 盲学校卒業後の進学・就労等のモデルケースの整理
--------------------------------	--